

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 和)

事業所番号	670700939		
法人名	十和建設株式会社		
事業所名	認知症高齢者グループホーム「和心」ふじ荘		
所在地	山形県鶴岡市伊勢原町25番2号		
自己評価作成日	平成29年10月31日	開設年月日	平成18年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様それぞれが、その人らしい生活が送れるように心がけています。また、施設の催し物や地域行事を通して、地域交流を図っています。毎日を楽しみ、安心、安全に過ごしていただけるように、体力維持にも積極的に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が地域の中で暮らし続けられるよう、「地域ふれあい交流会」への住民の招待や、利用者の地域行事への参加、運営推進会議へ町会長をはじめ婦人部や老人クラブ等地域の主要な役員の参加を頂くことなど、地域との交流を大切にしている。職員は「笑顔を大切に、あなたの話をたくさん聞く」という理念を実践し、利用者との向き合い、話を聞き、その人に合ったことを見つけ安心して暮らせるよう、普段から努力している。また、昨年の目標に掲げた通り、研修等への新たな取り組みも始まり、普段から課題意識をもって問題解決に向け努力しサービスの向上に活かしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成29年 11月 28日	評価結果決定日	平成 29年 12月 8日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内や研修室に理念を掲示し、職員全員で理解を深め、必要性の再認識に努めている。	理念を玄関や事務室など見やすい場所に掲示している。管理者等は職員の思いやその実践状況を把握し、折に触れ確認の機会を作り話合っている。職員は「あなたらしく暮らせる」ように笑顔を大切にして、利用者と向き合い、話を聞き、その人に合ったことを見つけ安心して暮らせるよう、普段から努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として地域行事に賛同し、入居者様が参加できるようにしている。また、施設行事(地域交流会)の時は地域の方々に参加を呼びかけ、ボランティア協力もお願いしている。	町内会に加入し、花の植栽、敬老会等地域行事に参加している。事業所で主催する「ふれあい交流会」に地域住民を招き、グループホームを理解していただけるよう情報を発信している。小・中学校との交流や、歌・踊り・楽器演奏等のボランティアの来荘、町内会婦人部の協力など、様々な交流が見られる。春には地域の4事業所と協働でオレンジカフェの取組も行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会やオレンジカフェを通し、認知症の人の理解や支援方法を地域支援センターと共に様子を伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催される会で、入居者様の様子を報告し、委員の方々より意見や助言をいただき、サービスの向上に繋がるように努めている。	町内会長、婦人部、老人クラブ、民生委員、市介護相談員、市職員、家族会等構成員により2か月に1回開催されている。事件事例や研修の成果、行事等の取組が報告され、委員からは災害対策、防犯等の意見が表されている。次回は会議に合わせて食事を共にし、意見を頂く取組みが予定されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1～2回介護相談員が来荘され、入居者様と関わられている。ケアサービス内容や実情を運営推進会議で市町村職員に報告し、情報を交換している。	運営推進会議に市職員から毎回出席頂き、事業所の取組等について指導を頂いている。また介護相談員が毎月来荘され、アドバイスを頂いている。利用者の個別の問題等は、担当窓口と連携をとり問題解決に向け協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	外部研修をもとに、職員は入居者様の行動に合わせて支援できるようにカンファレンスで話し合い、対応に努めている。外出したい方には、付添、見守り対応している。	研修等で身体拘束等について職員に周知している。利用者の個々の危険に繋がる行為には、その原因や理由を職員間で共有し見守ることを重視し、否定せず寄り添いながら安全を確保し、玄関に鍵をかけないで過ごす工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修をもとに、施設内研修を行い、虐待に対する意識を高め、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用されていた入居者様がいたり、外部研修に参加し、必要性のある時に活用できるように、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い、家族の不安や疑問点を確認し説明している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口があることを家族に周知しており、いつでも相談できるようになっている。また、家族の来荘時に困っていること、問題はないか声掛けしている。	家族の来荘時に言葉掛けをし話す機会を大切にするとともに、毎月のお便りで報告を行い、コミュニケーションを深めることで、意見等を表しやすい関係づくりに努力している。家族会に行事への参加を呼びかけ、直接意見等を表せる機会を作っている。介護相談員が来荘することで、利用者が直接外部の者に意見を表す機会となっている。苦情等は職員間で話し合い速やかに対応している。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議において、職員の意見を聞く場を設け、それを反映できるようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得を奨励し、給料に反映し、環境整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加の機会を設け、働きながらトレーニングできるように努めている。	昨年の目標達成計画に従い年間計画を作成するとともにし、外部研修に派遣した職員からの伝達を含め、事業所の実情に即した学ぶ機会を作っている。代表者等による、職員の目標管理を行い、一人ひとりの力量の把握をしている。法人は資格取得の支援をしている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホームの研修や、庄内連絡会の研修、および交換実習にも積極的に参加し、他施設との情報交換なども行っている。	グループホーム連絡協議会の研修や交流会、交換実習等に積極的に参加させ、同業者と交流する機会を大切にしている。地域の4事業所協働によるオレンジカフェも取り組まれ、事業所間の交流によるサービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までに生活されていた環境や様子などの記録を踏まえ、言葉かけにも注意しながら、要望などに耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前の段階から、家族と話し合いを持ち、要望、希望などを聞くようにしている。また、面会や通院時にも話し合いの機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、管理者、ケアマネ、職員で話し合い、入居者様が必要とする支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として入居者様を尊重しており、日々の関わりの中で職員が教えてもらうことも多い。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から外出、外泊に連れて行ってもらったり、自宅への外出希望の方には、家族と連携し支援している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	前に住んでいた地域に訪問したり、近所の方が訪れたりしている。家族、親せきの方が通院外でも面会に来ていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関わりが薄くならないように、ゲーム、レクリエーション、会話などを通じて、間に入り、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の利用者様のご家族にお会いした時は、近況を尋ねたり、写真を送ったりし、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしをもとに、毎日の会話などから希望や意図をくみ取り、稀に困難な方の場合には出来る限り本人の立場に立って支援を行っている。	職員等は利用者との関わりの中で話すことを大切にし、思いや暮らし方の希望の把握に繋げている。普段の気づきを大切にし、カンファレンス等で共有し本人本位に検討している。	利用者一人ひとりをより深く理解するために、生活歴や習慣、好み等の把握の仕組みの検討を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、施設などの情報を多く得るようにし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合わせた活動（散歩、運動）、調理、洗濯物たたみなどをお願いしている。できる事をしていただくことで、意欲を持って1日を過ごせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ユニットごとにケース会議を行い、状況把握し、課題、問題点の解決に努め、計画の見直しを行っている、また、家族、管理者、ケアマネ、職員と話し合いの場を設けている。	3ヶ月毎にモニタリングと計画の評価を行い、担当者会議で職員の意見を聞き、利用者ができることを大切に、現状に応じた計画の見直しを行っている。家族からは普段の面会の中で意見等を頂き計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人一人の様子、気づきなどを、個人ケースや連絡ノートに記録し、職員全員で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域広報や、職員より地域の情報を得、催し物に出かけたり、地域の子供会やボランティアの協力を得ながら豊かな暮らしが送れるように支援している。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診時は、毎日のバイタルの記録をもとに、体調の様子を情報提供書に記入し報告して、医師からの指示を家族、職員間で共有している。</p>	<p>利用者や家族の希望の医療機関との連携を大切にしている。通院は原則家族にお願いしているが、状況に応じて事業所でも支援している。事業所内での健康状態を文書にし、家族、医療機関、事業所で共有し、安心して医療が受けられるよう工夫している。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師、訪問看護事業所と連携して利用者様の健康管理が出来るような体制作りを進めている。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>かかりつけの医院、協力医療機関とは、綿密に相談、情報交換できる関係作りを行っている。また入院した際は、病院関係者と連絡を密にしている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に施設方針を説明し、理解していただいている。重症化した場合も、本人、家族と話し合い、今後の支援方針を共有している。</p>	<p>契約時に事業所で出来ることや方針を説明し理解を頂いている。また、状況の変化と共に繰り返し話し合い、関係者の方針の共有を大切にしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルで初期対応を把握している。地域の消防署の協力を得て、訓練も定期的を実施している。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いまだに万全とは言えないが、月1回の自主防災訓練を実施している。年2回消防署、地域消防団に参加をお願いして、訓練を行っている。	年2回の併設施設との合同での避難訓練では、消防署や地域の方の参加がある。毎月自主防災訓練が行われ、安全確保について真摯に取り組んでいる。食料等備蓄も行われている。	近年の災害の多様化を踏まえて、自然災害に関する訓練等の実施を期待したい。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の思いを尊重して、入居者様に対しての言葉づかい、声掛けなども注意して行っている。また職員会議などでも話し合う機会を設けている。	普段のかかわりの中から利用者の理解に努めその人に合った対応に努めている。接遇の研修も予定されている。親しみのあまり不適切な言葉かけや対応をしないよう、普段から職員同士注意し合うとともに、職員会議等で話合っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを知るために、日常生活や過去の情報から関わりの持ち方を探り、その引きだしに努めていくようにしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のやりたい事、思いを尊重して、本人に寄り添った支援ができるように努めている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容は本人の希望に合わせ、理容師が対応している。髭剃りなど困難な方には援助を行い、洋服なども本人の好きなものを着ていただけるように対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を楽しめるように工夫している。入居者様と職員と一緒に調理したり、片づけたり手伝っていただいている。	旬の食材や畑からの収穫、頂きもの等を交えながら、季節感を大切にした献立に配慮している。三食とも事業所内で調理し、利用者にもその過程に加わって頂きながら、そして職員と一緒に会話を楽しみながら家庭的な食事ができるように支援を行っている。行事食や利用者の誕生日のリクエスト献立等、アクセントをつけて、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師、看護師の指示を受け水分量、食事量を管理している。また、定期的に体重測定を行い記録し、体調管理に努めている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声をかけ、一人ひとり口腔ケアしていただいている。また個別に対応が必要な方には、介助を行っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、入居者様がどのぐらいの頻度でトイレを使用しているのか把握し、少ない時には声をかけ、自立に向けた支援を心掛けている。	排泄表を用いて排泄状況を把握するとともに、一人ひとりのパターンについて話し合い、適時の誘導によりトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自立している方については、把握するのが難しいところもあるが、水分摂取を促したり、運動の機会を作ったりし、便秘の予防に努めている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	自立している方は見守り対応にて、ゆっくり入浴していただいている。介助が必要な方については、出来ないところは一部介助で対応し、入浴を楽しんでいただく機会を作っている。	時間や湯温等利用者の好みに応じながら、入浴を支援している。入浴を好まない利用者にも、声掛けや誘導に工夫して、清潔が確保できるよう支援している。窓からの景色や入浴剤を活用し、入浴を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	過去の生活習慣を参考にしながら、その方に合わせた休息、睡眠環境を作れるように心がけている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同士で情報共有し、服薬ミスがないように日々努めている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の好きな事、得意な事を日々の関わりの中で見つけ、個々に応じたレクリエーションや、軽作業を提供している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望がある時には、日程調整を行い、外出の機会を設けている。	事業所の行事として、毎月のように花見や藤の花見学、足湯等普段出かけられないところへのドライブ等支援している。また、買い物等個別の支援も行われている。外気浴としての散歩や駐車場で行事等外気に触れる機会を大切にしている。家族等の協力による買い物、外食等の支援も行われている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人より申し出があれば対応し購入している。外出などが可能な入居者様には一緒に買い物に出かけ支援している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より希望がある時は、電話したり、手紙を書いていただいている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごしていただけるように、室内の温度調整を行っている。また、ダイニング、廊下に装飾を施し季節感を感じていただけるようにしている。	温度や湿度を定期的に調整し、利用者と一緒に清掃を行い快適に過ごせるよう支援している。行事等思い出の写真や利用者の作品、季節感を大切にしたりした飾りつけ等、居心地が良くなるよう工夫されている。食卓やソファで利用者それぞれが気に入った居場所でゆっくり過ごせる空間であった。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方々、入居者様同士のトラブルに配慮してダイニングの席順を考えている。結果、会話が弾んだり、個々にゆっくりされる環境が構築できている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が使用されてきた思い出の品を居室に飾ったり、配置している。また都度、本人、家族の希望を聞き、居心地良く過ごせるように工夫している。	座いすやテレビ、書棚等々利用者それぞれが馴染みなものや気に入ったものが持ち込まれ、思い出の飾りつけや家具が配置され、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間の安全を考慮したベッドの位置、高さになっている。転倒の危険がある方はセンサーを設置し、予防に努めている。			